

【神奈川県】 聖マリアンナ医科大学腎泌尿器外科



“How to become a good surgeon -

Surgeons must be technically able; make sensible, logical decisions; communicate well; and know when (and when not) to operate”
-BMJ 2007



聖マリアンナ医科大学は、2019年に菊地栄次教授が就任し、大きく生まれかわりました。新生聖マリアンナ医科大学の特徴をご紹介します。



Bladder cancer

教授の専門は、尿路上皮癌(膀胱、腎盂・尿管癌)です。よって、本学も尿路上皮癌診療に力を入れています。尿路上皮癌は、進行が早くそして経過が複雑に絡み合い、主治医の力量が治療経過に大きく反映される癌腫の一つです。しかしながら、日本では専門といえる泌尿器科医は数少ないのが現実です。当院の特徴として

- 膀胱癌の専門外来がある。
- 年間20例近くの開腹膀胱全摘除術を施行している。
—高齢やリスクが高く、他施設では手術を断られた症例でも積極的にそして安全に手術を行っている。
- 他科との合同で、骨盤内拡大手術も積極的に行っている。
- 最新の薬物治療を多くおこなっている。2021年度治験数 7件



Renal plantation

本学は、以前から腎移植を数多く行っています。これは菊地教授体制になっても変わりません。

- 腎臓内科、泌尿器科と連携して集学的な腎移植診療を行っている。
- 症例数は、毎月2例と年間20例近くに上る。
- 献腎移植も積極的に行っている。



Prostate cancer

- 前立腺癌の診断のためMRI/超音波融合生検を導入。
- 以前から施行している小切開拡大前立腺全摘除術を施行。年間50件程度の症例数。

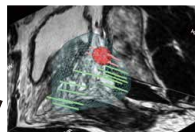


Machines

新しい機械を導入し、更なる診療の充実化を図っています。

●診断ツール

膀胱癌：光学診断システム 2021年導入
前立腺癌：MRI/超音波融合システム
(KOELIS社製 TRINITYシステム) 2019年導入



●手術支援ロボット

ダヴィンチ 2021年多摩病院に導入

●ツリウムレーザー 2021年多摩病院に導入



Cooperation

本学には2つの分院があります。3つの施設で泌尿器科診療を広くカバーしています。

大学：がん治療(尿路上皮癌、前立腺癌、各癌腫の集学的治療)+腎移植

多摩病院：ダヴィンチ手術+小児泌尿器+前立腺レーザー治療+結石治療

西部病院：腹腔鏡下手術+副腎疾患

レジデントの間は、3施設でまんべんなく経験を積んでもらいます。



Growing

臨床に関して

レジデントの頃から手術には積極的に加わってもらいます。

まず尿路上皮癌専門の医師の下、経尿道的膀胱腫瘍切除術を年間20-30例執刀し学んでもらいます。また開腹手術が多いことから、手術スキルも上がります。さらに腹腔鏡専門医も毎年生まれるようになりました。

研究に関して

臨床研究は、レジデントの頃から開始します。入局1-2年目でも年間2学会程度で筆頭演者として発表してもらいます。

基礎研究は、研究員が2名在籍し、丁寧な研究指導を受けられます。

聖マリアンナ医科大学でのレジデント生活は大変です。決して楽ではありません。しかしながら、それだけ臨床経験を積むことが可能であり、臨床スキルは必ず磨かれます。また、実臨床につながる臨床研究にも早いうちから携わってもらい、積極的に学会に参加してもらいます。それにより、学問としての医学を学んでもらいます。

“知識に裏打ちされた細やかな診療と経験を積んで得た確かな技術”すなわち一流の泌尿器科医になるべく、みんなで切磋琢磨をしています。ぜひ興味がある方は、連絡をください。

聖マリアンナ医科大学腎泌尿器外科 医局長 早川 望(文責)
連絡先 urohisho@marianna-u.ac.jp

